

得て出馬は是迄延引せしが既小今年も春深し軍營調練も満了し一り速小
 出陣あり言岡神戸の城を一時小臨しとをゆる年の辱を乞ふんと評定の席に
 詔ありし小本中進出く言はれらく去来言岡の城を圍し既小攻振りしと
 べたせ山路が降参を願ふ小よりくを修河降陣ありし和渠係君の物とを言ふと
 是迄遠道の漸出陣は之罪を責むるありとす軍小理ありしとを言ふもまじき
 岡(使者)遣えし降参延引の義を以て是後河出馬あらせらるる一節の如
 く多て駒の君の道理の如く強く且寛仁の河沙治るは彼國人候おのづから山
 路弾正が偽を悪む心も出来りて君は悪小降伏し招きまじき事なき
 河使者山路小利解を関せ渠備降伏しとす言ふも駒とすは降参せと大軍はす
 くらも圍し城を下し獲しとを言ふ小織田殿同く至ひしを承るも使者はす言ふ
 山路が返答せきく是より小甚くを禮の挨拶を言ふ信長大小怒らせしを以今ハ

片時も猶豫をせし疾推進を遂つとせとて同来二月初八日飯泉に出軍お
 らせらる。濱引尾引の軍勢小三軍の加勢に都合をえ四方全路とて听し威
 風ハ山林の樹木を枯し。穀氣ハ空虚の雲を渡り對する飯泉の城より来名を
 十二之里が三間小軍を喝せ續て後ををり。者九日の来小入る頃来名小降参し
 くるが。龍川を去途へ君の城中へ河陣と居らる。総軍勢ハ中。小降参も
 あり後免満せり。勢ハの武士こもせ見えて。懼怖を神懸消しつとす一とく
 たりまじき同神戸八田お此も怖まじき案謀を推し来らる。目小猛勇に
 せん。とす。籠索を引く後懸り。然後小織田殿の来より。の選糧もあまなき
 高岡を攻落し。丹波小神戸へ推進し。と暢らせしを以て本下秀吉君大軍
 を發させしを以て此地を河出馬す。多せ。飯之城を攻臨して。河腹療を
 至せん。為名水治し。多ふ。義の部量の大軍を發させしを以て。山路が返答せしを